

# マイクロプラスチック シンポジウム

海に流れ出た大量のプラスチックごみが引き起こす環境汚染が世界的な問題になっています。本年6月29日に大阪で開かれた主要20カ国・地域（G20）首脳会議でも主要議題に挙げられ、会議の成果をまとめた首脳宣言では新たな海洋プラスチック汚染を2050年までにゼロにする事を目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有化され、プラスチックの重要性を認識しつつ、誤った管理によるプラスチックごみの流出を減らす包括的なアプローチによりプラスチックごみによる海洋汚染の削減を目指す取組みが始まりました。マテリアルライフ学会では、劣化やエコマテリアルを専門に扱う学会として、プラスチックごみ問題に取り組んでいる専門家や第一線のマイクロプラスチック研究者を招聘し、最新情報の共有と意見交換を目的としてシンポジウムを開催します。マイクロプラスチックや海洋プラスチック汚染に関心をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

【主催】マテリアルライフ学会

【協賛】機能性フィルム研究会

【日時】2019年11月26日（火） 13:00~17:40（予定）

【会場】関東学院大学関内メディアセンター M803 講義室

〒231-0011 横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター 8階

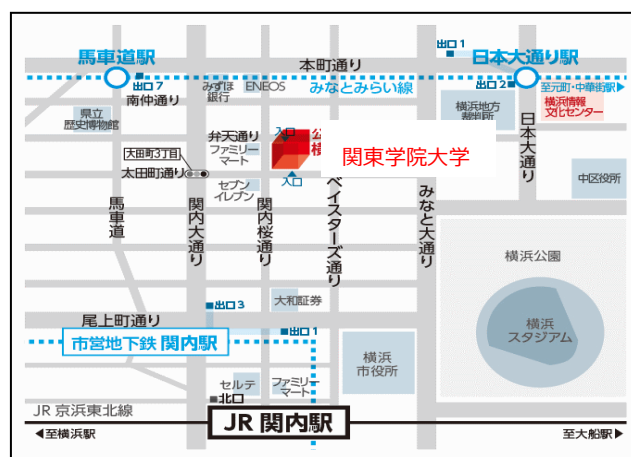
JR根岸線・市営地下鉄関内駅徒歩5分

【参加人数】100名

【参加費】一般10,000円、シニア6,000円、学生4,000円、非会員15,000円、学生非会員6,000円

【申込方法】申込用紙による直接申込またはマテリアルライフ学会HPより

## アクセス



## プログラム

### 第1部 (司会 ; 五十嵐敏郎)

- 13 : 00~13 : 05 **開会挨拶 (五十嵐敏郎)**
- 13 : 05~13 : 40 **プラスチック汚染 世界で今起こっていること (井田徹治 ; 共同通信)**  
世界各地で使い捨てプラスチックによる海洋や環境汚染が深刻化している。海に漂うプラスチックごみは、マイクロプラスチック汚染という新たな問題も引き起こした。世界各地で筆者が見てきたものを報告する
- 13 : 40~14 : 15 **海洋プラスチック問題への産業界の取組み (岸村小太郎 ; 日本プラスチック工業連盟)**  
海洋プラスチック問題に対する日本プラスチック工業連盟の取組みをベースに、産業界の動向や企業や団体による具体的な取組みの事例を紹介する。
- 14 : 15~14 : 50 **“調べるごみ拾い” にみる荒川の河川ごみの現状  
(今村和志 ; NPO 法人 荒川クリーンエイド・フォーラム)**  
流域人口 1,000 万人を誇る都市河川荒川では 25 年以上清掃活動が続けられており、ここ最近の年間参加者数は約 1.3 万人となっている。荒川では International Coastal Cleanup(ICC)に準拠したごみの種類と数を記録する「調べるごみ拾い」が続けられてきた。これまで蓄積されてきた結果から荒川の河川ごみについて考察する。
- 14 : 50~15 : 10 **総括質疑**
- 15 : 10~15 : 25 -----休憩-----

### 第2部 (司会 黒田真一)

- 15 : 25~16 : 05 **海洋プラスチックの動態と今後の研究展開 (磯辺篤彦 ; 九州大学 応用力学研究所)**  
海洋表層に浮遊するマイクロプラスチックの現存量観測や、数値シミュレーションによる予測結果を報告する。また、マイクロプラスチックの発生や消失過程に関する現状での研究課題について解説する。
- 16 : 05~16 : 40 **マイクロプラスチックの生成機構と対策 (中谷久之 ; 長崎大学)**  
我々はポリプロピレン(PP)を水中下でナノサイズまで微細化させる事に成功し、この機構こそが海中でのマイクロプラスチック(MP)の生成機構であり、ミッシング MP を起こす原因である事を証明した。当日は、このナノ化機構の詳細、対策法であるMPの新規回収法およびそのアップグレードリサイクル化について講演する。
- 16 : 40~17 : 15 **屋外暴露されたPP射出成形品から発生するマイクロプラスチック (栗山卓 ; 山形大学)**  
長期間屋外で使用されたプラスチック製品の表面には、「荒れ」、「ひび割れ」が発生するだけでなく、「チョーキング現象」とよばれる「微細な粉」が表面に発生することもある。多くは表層から容易に崩落する。本報告では、これらの生成機構について述べる。
- 17 : 15~17 : 35 **総括質疑**
- 17 : 35~17 : 40 **閉会挨拶 (黒田真一)**